

京都ならではの STEAM 教育充実に向けた調査研究検討会議について

1 趣旨

明治維新による急激な人口減少で、都市存亡の危機に直面した京都の先人たちは、「まちづくりは人づくりから」と、「竈金(かまどきん)」と呼ばれる私財を出し合い、1869年(明治2年)に、日本初となる学区制小学校(番組小学校)を創設しました。この創設の原動力となった町衆の伝統と進取の気性、自治の精神は、京都の「ひらかれたまち柄」として脈々と継承され、「市民ぐるみ・地域ぐるみで一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市教育の発展の基盤となっています。

番組小学校創設から100年経過した1969年(昭和44年)、人類が初めて月面に着陸し、科学の新たな歴史が幕を開ける中、「京都に名実ともに日本一の科学館を建設したい」という市民の願いと各界の皆様方の多大な御尽力により、「『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を設立目的とした「京都市青少年科学センター」が開館いたしました。以来、約55年にわたり、京都の大学や企業、博物館等関係機関、市民の皆様に支えられ、科学への興味や探究心を触発し、「科学する心」を育む拠点としての役割を果たしてきました。

一方、グローバル化の進展や AI(人工知能)技術の普及、自然災害など、時代の変化が複雑化・加速化の一途を辿る中、子どもたちをはじめとした一人ひとりが、時勢に翻弄されることなく、自然や歴史、文化に触れながら豊かで鋭敏な感性を育み、個性に応じて様々な事物を探究し続け、Well-being な人生の創造につながるような、夢中と感動に溢れた学びの場が求められています。

以上を鑑み、京都の「ひらかれたまち柄」の強みが最大限に生かされ、実社会での問題発見、その解決手法の模索、新たな価値の創造を志向する「京都ならではの STEAM 教育」の充実に向け、京都市青少年科学センターが、これまでの蓄積を大切にしつつ、その拠点たるに相応しい科学館へと飛躍を遂げるべく、調査研究を進めます。その一環として、今後の科学館としての「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき機能」、「機能を実現するために必要な環境」等について、多角的な視点から議論を深めていただくため、検討会議を開催します。

2 検討会議の進め方

(1) 検討会議のスケジュール

	日時	内容(予定)
第1回 【済】	2025年7月8日(火)	<ul style="list-style-type: none">・ STEAM 教育の意義・ STEAM 教育の充実に向けた科学館への期待
第2回	2025年10月15日(水)	<ul style="list-style-type: none">・ STEAM 教育の拠点に相応しい科学館として果たすべき機能(役割)等
第3回	2025年12月上旬頃	<ul style="list-style-type: none">・ 機能を実現するために必要な環境等
第4回	2026年2月下旬頃	<ul style="list-style-type: none">・ 全体整理

(2) ワークショップ「まちびとよりあい～京都で STEAM～」の実施

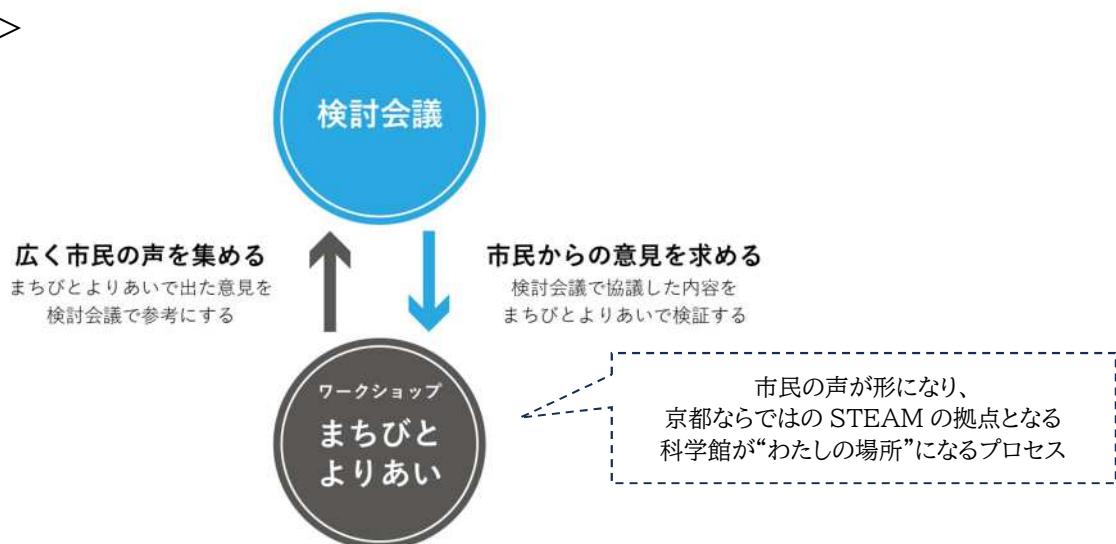
上記(1)と同時並行して、京都ならではの STEAM 教育、その充実に向けた科学館の姿などを市民と共に考えるワークショップを3回程度開催します(参加者は公募による)。

ワークショップの内容については、検討会議にフィードバックするなど、両者を往還させながら調査研究の充実を図ります。

<ワークショップの実施予定>

	日時	内容(予定)
第1回 【済】	2025年8月24日(日)	「京都でできる STEAM って何だろう？」 ↓ 身近な体験や事例をもとに「STEAM のタネ」を見つける。
第2回 【済】	2025年9月7日(日)	「京都ならではの STEAM の学びは？」 ↓ 京都の地域性を活かした STEAM の学びの空間や体験などのアイデアを広げる。
第3回	2025年11月9日(日)	「京都で STEAM を育てていく仲間集め」 ↓ 第2回の内容の実現に向けた協働の輪を広げ、参加者が「どう関われるか」を宣言する。

<イメージ>



京都ならではのＳＴＥＡＭ教育充実に向けた調査研究 検討会議 開催要綱

(設置)

第1条 京都ならではのＳＴＥＡＭ教育の拠点となる科学館の「使命」や「るべき姿」、「施設のあり方」等を検討するために、様々な立場から幅広く意見を求める目的として、「京都ならではのＳＴＥＡＭ教育充実に向けた調査研究」検討会議（以下「検討会議」という。）を開催する。

(委員)

第2条 検討会議に参加する委員は、学識経験のある者その他教育長が適当と認める者の中から、教育長が就任を依頼する。

2 前項の規定により就任する委員の人数は、20名以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は、就任した日から当該年度の3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(招集)

第4条 検討会議は、教育長が招集する。

(座長の指名等)

第5条 教育長は、委員のうちから検討会議の座長を指名する。

2 座長は、検討会議の進行をつかさどる。

3 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名した委員がその職務を代理する。

(委員以外の者の出席)

第6条 教育長は、必要があると認めた場合は、委員以外の者に対し、検討会議に出席を求め、意見の陳述、説明その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第7条 検討会議の庶務は、京都市青少年科学センターにおいて行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の開催に必要な事項は、教育長が定める。

附則

(施行期日)

この要綱は、令和7年5月7日から施行する。

「京都ならではのＳＴＥＡＭ教育充実に向けた調査研究検討会議」 傍聴要項

1 趣旨

この要綱は、京都市市民参加推進条例第7条に基づき、「京都ならではのＳＴＥＡＭ教育充実に向けた調査研究検討会議」の傍聴に関し必要な事項を定める。

2 傍聴手続

- (1) 会議を傍聴できる人数は、原則として10名とする。ただし、会場の都合によりその人数を制限することがある。
- (2) 会議を傍聴しようとする者は、会議開会予定時刻の10分前までに、予め指定する場所に集合しなければならない。
- (3) 次のいずれかに該当する者は、傍聴を許さない。
 - ア 酒気を帯びていると認められる者
 - イ 会議の妨害となると認められる器具等を携帯している者
 - ウ ア及びイのほか、座長において傍聴を不適当と認める者
- (4) 傍聴をしようとする者が、(1)に定める人数を超えるときは、抽選で傍聴人を決定する。

3 傍聴人の遵守事項

- (1) 傍聴人は、次の行為をしてはならない。
 - ア みだりに傍聴席を離れること。
 - イ 私語、談話又は拍手等をすること。
 - ウ 議事に批評を加え、又は賛否を表明すること。
 - エ 画像の撮影、録音等をすること。ただし、報道関係者等で予め座長の許可を受けたときを除く。
 - オ アからエまでのほか、会議の妨害となるような挙動をすること。
- (2) 傍聴人は、次のいずれかに該当する場合、速やかに退場しなければならない。
 - ア 会議を公開しないこととする決定があった場合。
 - イ この要項に違反し、座長が退場を命じた場合
- (3) (1) 及び (2) のほか、傍聴人は、座長の指示に従わなければならない。

4 その他

この要項に定めるもののほか、傍聴に関し必要な事項は、座長が定める。

京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究検討会議 委員名簿

(区分内五十音順、敬称略)

区分	氏名	所属・役職名等	第2回会議 出席・参加方式
STEAM 関連分野 有識者	浅川 智恵子	日本科学未来館 館長	出席・オンライン
	小山 田 徹	京都市立芸術大学 学長	出席・集合
	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館 准教授	出席・集合
	チースレロヴァー クリスティーナ	(公財)有斐斎弘道館 研究員／ 栖賢寺 茶頭	出席・集合
	仲田 匡志	(株)SOU代表取締役／ U35-KYOTO プロジェクトマネージャー	出席・集合
	野口 範子	同志社大学 生命医科学部 教授	出席・オンライン
	山極 壽一	総合地球環境学研究所 所長	出席・オンライン
経済 団体	細川 万理子	京都商工会議所 産業振興部長	出席・集合
	本永 治彦	青少年と科学の会 代表代理／ (公社)京都工業会 専務理事	欠席
保護者	菊田 めぐみ	京都市PTA連絡協議会 庶務	出席・集合
学校 関係者	岩佐 峰之	京都市立高等学校長会 会長／ 西京高等学校長	出席・集合
	小滝 俊則	京都市立中学校長会 会長／ 音羽中学校長	出席・集合
	齋藤 麻友子	京都市立幼稚園長会 会長／ 伏見板橋幼稚園長	出席・オンライン
	清水 美穂子	京都市立総合支援学校長会 会長／ 西総合支援学校長	出席・集合
	神内 貴司	京都市小学校長会 会長／ 下京雅小学校長	欠席
行政	瀬戸口 烈司	京都市青少年科学センター 所長	出席・集合
公募 委員	梶本 大雅	市民公募委員	出席・集合
	小西 航希	市民公募委員	出席・集合

<第1回検討会議からの整理>

【京都市青少年科学センターの設置目的】

科学者精神（科学的なものの見方、考え方、扱い方など「科学の方法」及びこれを活用する心構え）を体得した将来の市民を育てる

【STEAM教育の意義】

- 身体性を重視した多様な縮尺による学び
- 問いや対話による多様な見方・考え方と未知への探究を生み出す原動力
- 自分らしい生き方・探究を通じた新たな価値の創出

【京都ならではの内容】

- 多様な機能の集積と様々な重なりを可能とするひらかれたまち柄
- 伝統の継承と創造により独自の価値を生み出す進取性

<本日のテーマ>

STEAM教育の拠点に相応しい科学館として果たすべき機能（役割）とは？

第1回会議における御意見のまとめ

本資料は、第1回会議(7月8日開催)における意見交換の内容を一定の項目ごとに整理したものです。

1 科学教育に関する問題意識

【主な御意見】

- ・ 日本の高校生は、諸外国に比べ、理科・科学の実用性や必要性に対する意識が低い。
- ・ 理科離れのための理科実験教室をただ STEAM と読み替えるだけだと、本来求められている STEAM 教育から外れてしまうのではないか。
- ・ 子どもたちの学びと社会課題とが結びついていない。
- ・ 「科学は難しい」と抵抗感を覚える人は多い。

2 STEAM 教育の意義

○ 身体性を重視した多様な縮尺による学び

【主な御意見】

- ・ 人間が生きるという日常の営みそのものが STEAM 教育といえ、それは、本来、地球の自然と切り離すことができないもの。さわる、つくる、こわす、におぐなど様々な感覚を働かせながら複雑な世界の認知を試みるからこそ、その人ならではの「ひっかかり」が得られる。
- ・ 茶道では、抹茶を味わう、その場の雰囲気を味わう。
- ・ 子どもたちが本物に触れる場所は必要。
- ・ 小さい頃から興味をもって「触れる」ことには意義がある。
- ・ 子どもにとって、新しい何かに気づく体験を多くできる環境は大切。「ものづくりなど身体的な動き」を伴うものになるとより効果的。
- ・ 科学の魅力は、問題解決に役立つ「すごい」という実感と、日常とは異なる非日常的な「異次元」の体験の両方にある。文化との接点を通じて科学をつなぐことも STEAM の力。
- ・ STEAM 教育の「Arts」によって、学びの「縮尺の作り方」の幅が広がる。
- ・ 興味をもつことが、子どもの可能性が伸びるきっかけになる。

○ 問いや対話による多様な見方・考え方と未知への探究を生み出す原動力

【主な御意見】

- ・ 答えを提供するのではなく、問い合わせの中で一人一人に考えていただくような展示へ。
- ・ 対話しながら、いろんなアイデアが広がっていく。
- ・ 自然には未知なることが多くあることを知る。科学や芸術を通じて自然に迫ることができる。
- ・ 子どもたちの「なんで?」という好奇心や「どうやつたらうまくいくのか?」など、うまくいかなかつた経験が探究のタネになり、そして、自身の生き方を探求していくことになる。

- ・「カルチャー」は耕すように育むものという意味合いが強い。自分たち自身で問い合わせが湧くような文化・芸術を目指したい。
- ・予測困難な時代には、時代に応じる力、複雑な課題を構造的に捉えて解決する力(越境する力)が必要。どのような世界も、必ず何かがつながっており、学びの連鎖を通じてわからないことが増え、次の探究が生まれる面白さがある。
- ・論理的思考に加え、デザイン思考から発展して更には、アート思考が重要。単なる学問の積み重ねでは生まれない直感や感性が必要で、そのような思考で物事を生み出す発想が、ウェルビングにつながっていくのだと思う。
- ・アートの力を活かすなどすれば、科学、社会、人をうまくつなげられるのではないか。

○自分らしい生き方・探究を通じた新たな価値の創出

【主な御意見】

- ・「こうしてみたいと思ったことができる」が重要。
- ・「わからないこと」を前向きに受け止め、その連鎖によって生まれる没入や探究が、その人にとつての豊かさの価値になる。
- ・ものづくり企業は、新たな結合によるイノベーションの取組を進めてきているが、それを担う人財を小さい頃からどう育てるか、悩みの種となっている。

3 京都ならではの内容

○多様な機能の集積と様々な重なりを可能とするひらかれたまち柄

【主な御意見】

- ・京都にはコンパクトシティの良さがあり、多様な文化施設が集まる魅力を活かす。
- ・京都は芸術文化と経済がコンパクトに凝縮されており、垣根を越え、重なりの中で学びを育み、深めていくことができる。
- ・京都の学びには地域の特色が生かされている。地域によっては、生き方チャレンジ体験学習(地域の事業所等での職業体験)で、はた織りなどを体験。

○伝統の継承と創造により独自の価値を生みだす進取性

【主な御意見】

- ・京都のものづくりの歴史には、伝統工芸から着想を得て発展してきたユニークな特徴もある。
- ・京都独自の科学技術がどのように発展してきたか、そして、京都の企業がどのような事業を実施し、どのように貢献しているかについて、体験的に学べるとよい。
- ・ロマンのある技術や研究を近い存在として認識し、自分もその世界の一員になれる可能性を感じられる場があるとよい。起業家や企業におけるプロダクトや技術の社会実装に向けた実証フィールドとしての需要があるかもしれない。

4 今後の科学館に期待すること

【主な御意見】

- ・ もっと多くの市民が「科学する心」を養えるような取組ができればよい。親子で楽しみながら学べるなど子育てに貢献できる場があれば。
- ・ 中学生や高校生にもっと来場してもらえないか。特に、高校進学を見据えて文理選択を迫られることが多い中学生には、科学館で STEAM 教育を体験し、忘れていた好奇心を取り戻した上で進路を考えてもらうと、また違った展開が生まれる可能性がある。
- ・ オーダー型の探究的な学びをコーディネートする人材や学びの作り手(例:文化、経済の第一人者)の育成、拡充が必要。
- ・ 学校の授業で興味をもった子どもが更に興味を深めるプログラムや、科学館のプログラムで興味をもった子どもが学校の授業で学びを深めるなど、学校の授業との相乗効果を得る工夫ができないか。

第1回・第2回ワークショップで出されたアイデア

■募集チラシ



まちびとよりあいは全3回を予定しています。

第1回 京都でできる“STEAM”ってなんだろう？ 8月24日(日) 16:00-18:00

STEAMってなに？ みなさんの推しの京都の面白さとは？ 京都につながるSTEAMのアイデア出し
・近い分野や興味の方々がチームごとに議論！
・オンラインで全国から参加も可能

場所 京都市青少年科学センター

第2回 京都ならでは“STEAM”的学びは？ 9月7日(日) 15:00-17:00

テーマ別、京都で学べる場ってどこ？ どんな体験ができるのか？ 京都だからできる学びのアイデア
・ワールドカフェ形式でアイデアを追加！

場所 京都市学校歴史博物館

第3回 京都でSTEAMを育てていく仲間集め 11月9日(日) 14:00-17:00

第2回のアイデアのプレゼン大会 中高生・大学生と共に意見出し
アイデアに自分がどう関わるか宣言
・このアイデアがミーティングのコンテンツになるかも！
・10代にも意見をもらおう、よりワクワクに

※いづれか1回のみの参加でも構いません。

本プログラムにご賛同いただける方（18歳以上）

※応募多数の場合は、抽選とさせていただきます。
※第1回のみ5名程度限定でオンライン参加もOKとします。
※京都市内の会場にお集まりいただきます（交通費等の補助はございません。）。

40名

募集対象・人数

参加者特典

申し込み方法

お問い合わせ先
京都市青少年科学センター

TEL 075-642-1601 FAX 075-642-1605
E-Mail science_c@edu.city.kyoto.jp

※第1回、第2回共通のエントリーフォームです。
「第1回のみ参加」「第2回のみ参加」「両日とも参加」をご選択いただけます。
参加者一人ごとに申込みください（1回に複数の方が申込むことはできません。）
※8月15日(金)までに参加の可否をメールでお知らせいたします。

QRコード

アイデア① 京都のまち全体をSTEAMの学びの場とする

- 京都の各所にある自然環境・文化的建造物を「教室」として活用
 - ・ 鴨川（植生・石の種類の比較など）
 - ・ 寺社仏閣（伝統工法）
 - ・ 工場（職人の技術、人となり）、料亭（和食文化）
 - ・ 企業（任天堂、島津製作所など）
- まちの各所で体験を支える、遊びの「先生」（=コミュニケーションセンター）を配置
 - ・ 遊びの先生は単なる専門家ではなく、分かりやすく伝え、学びを深める役割
 - ・ 認定コミュニケーションセンターとして、地域の企業や職人さんを認定する制度をつくる
- 科学センターは「職員室」学びの場への案内・ハブ機能を担う
 - ・ 「教室」と「遊びの先生」をつなぎ、情報を集約し、管理する
 - ・ 「文化科学体験の観光案内所」のような役割を果たす
 - ・ 「京都市内に点在する多様な学びの機会をつなぎ、年齢や背景を問わず誰もが自然と集い、交流できる場所

アイデア② 京都STEAMリビングラボネットワーク

- 科学館を中核拠点として、京都市内の多様な分野の現場（食・伝統工芸・観光・製造・自然環境）を「実証・共創の場（リビングラボ）」としてネットワーク化。
- 交通機関、各所の施設や管理団体、店舗などと連携して現地情報やアクセス方法を来館者へ提供。
- 科学館がリビングラボ認定制度の運用（コンテンツの質保証＋研修支援）。
- 科学館分室の設置制度を設けて、認定制でやることで連携先のフィルタリングをしつつ、ブランディングにも寄与。街全体をSTEAMラボにする。
- 年に1回、STEAMリビングラボシンポジウムを開催して各所の学びを共有、発展のためのディスカッションをする機会を設置。強化・発展の仕組みとする。

アイデア③

次世代の探究推進拠点としての「探究自由工房」の設置

- 事前申請をすれば使用できる**自由工房を設置**。
3Dプリンタや電子工作機器、実験器具の貸出と利用のサポートを行う。
- 連携企業、大学の研究者が定期的に来館して探究のヒントを提供するサイエンスカフェの開催と探究相談会を実施。連携先企業・大学のアウトリーチの場としても活用してもらいつつ、**次世代との接点**を設ける。
- 事前予約制・利用料徴収の仕組みを導入して、**運営の持続可能性を確保**。

アイデア④

地域人材が循環する「サイエンス・コミュニケーター制度」

- 科学館が認定する「**サイエンス・コミュニケーター (sc)** 」**制度**を導入し、多様な専門家・実践者（研究者、職人、起業家、大学生、高校生）を可視化・ネットワーク化。来館者や外部施設と「つながる・話せる・相談できる」関係を構築する。
- 「STEAMリビングラボ」や「探究自由工房」での活動を支える**メンター人材の供給源**となる。
- 京都市内の大学・研究機関・企業・学校に人材が多くあり、顔の見える関係をベースにすることで地域に根差した運用を目指す。
- 登録者には活動に応じてポイントや地域通貨支給など**インセンティブを設計**。

京都市青少年科学センターの取組概要



資料7

● 概況

- ・ 1969年5月、「『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を目的として現在地に設立。前身は、戦後に科学教育振興の先駆けとして大きな役割を果たした「科学教室」（1951年設置）。
 - ・ 2025年3月、博物館法に定められる博物館に登録（1979年、博物館に相当する施設に指定）。
 - ・ 子どもたちの理科教育や市民の生涯学習の振興に向け、多くの大学や企業団体等との連携・協働、御支援を賜りながら、「センター学習」や「教員研修・学校等支援」、「市民科学事業」など、様々な取組を推進。
 - ・ 展示場の一般入館者数は年間で約14万人（その他、センター学習等での来館者あり）。

所在地：京都市伏見区深草池ノ内町13



[地下鉄竹田駅から東へ約1km、京阪本線藤森駅から西へ約400m]

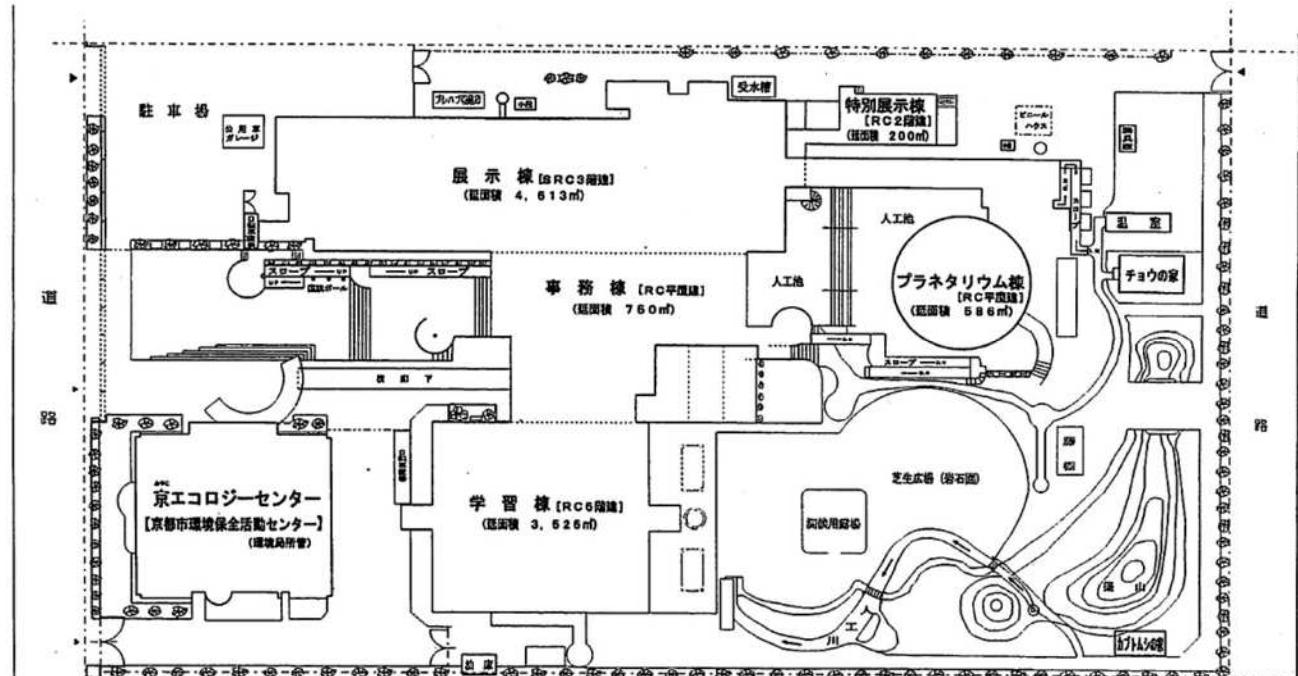


● 施設について

- ・ 用途地域 第1種住居専用地域、容積率200%、建蔽率60%、高度地区20m第2種高度地区
 - ・ 敷地面積17,408m²、延床面積9,674m²（鉄筋コンクリート造地上3階）、屋外園5,200m²
 - ・ 1969年竣工。指定都市の科学館15館の中では一番古い施設（設備）。目標耐用年数は80年。

＜建物等の主な内容＞

- ・ 学習棟 3,525m²
実験室、天文台など
 - ・ 展示棟 4,813m²
展示スペース (2,030m²) など
 - ・ プラネタリウム棟 586m²
 - ・ 事務棟 750m²
 - ・ 屋外園 5,200m²
チョウの家、カブトムシ飼育所等



● 主な事業について

主な事業	内容
センター学習	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校、総合支援学校段階の子どもが、学校教育活動の一環として来館し、独自の教材やプログラムを用いて実施する観察実験学習。 [小学校6年生は全校参加]
教員研修・学校等支援	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校教員等を対象とし、観察実験の基本的な実技や効果的で安全な指導法など、年間20種類以上のメニューで研修を実施。 観察実験の補助等を行うスタッフの派遣や指導等に関するアドバイス、教材貸出など、理科教育の充実に向けた学校への支援を実施。
市民科学事業	<ul style="list-style-type: none"> 市民の科学に対する興味関心を高めるため、展示場やプラネタリウムの公開、市民向けの各種講座を実施

一般入館者数等の推移

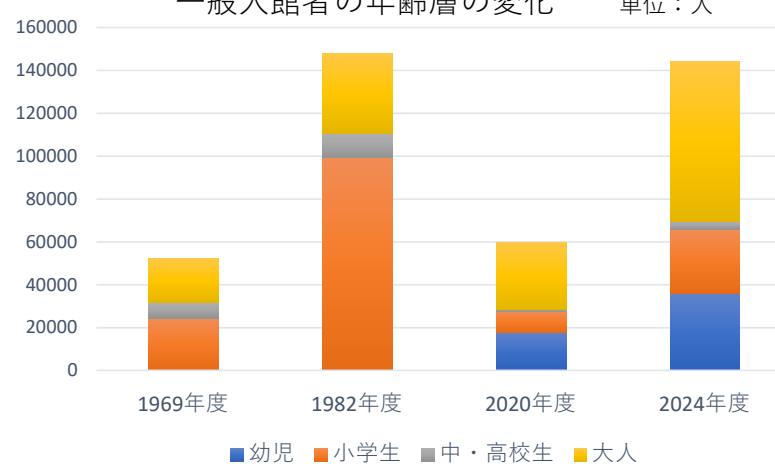
単位：人

年度	1969	1982	2018	2020	2024
展示場一般入館者数	51,957	147,999	133,304	59,453	144,305
内訳	幼児	–	34,981	17,598	36,101
	小学生	24,321	99,326	33,680	9,852
	中・高校生	7,436	11,398	3,318	1,141
	大人	20,200	37,275	61,325	30,862
	(親子ふれあいSR)	–	(28,744)	(12,980)	(34,628)
<参考>					
プラネタリウム観覧者	39,606	115,667	66,707	16,536	70,314
センター学習	70,139	84,966	31,895	44	25,043

※ 親子ふれあいSR（サイエンスルーム）：乳幼児と保護者が、科学的な遊具や本などにふれあい、科学の不思議や面白さを体験する場。（2012年度に開設）

一般入館者の年齢層の変化

単位：人



● 特色ある取組について

- 多様な企業団体等との連携・協働により、事業の対象は、サイエンスを基軸に、伝統産業や芸術など他の分野を包摂するものへと広がっています。

○ STEAM LAB.

- 騎手クリストフ・ルメール氏とのトークセッション
(生物×生き方探究)
- バレンタイン プラネタリウムコンサート
(京都市交響楽団×星空)
- いけばなパフォーマンス in プラネタリウム
(伝統文化×星空)

青少年科学センター STEAM LAB.



○ おとのセンター学習

- 日本酒の科学 ～酵母の不思議～

「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に企画。
京都酵母を開発した京都市産業技術研究所と連携。
アルコールの性質に関する実験を通じて酵母の働きを学ぶ。



京コマ職人が講師。
コマが回る物理法則を学びつつ
京コマを製作。

○ 科学×京都の伝統産業×伝統工芸

- 金箔、和ろうそく、京コマ

● 多様な主体との主な連携・協働について

連携手法	連携主体・内容
包括連携協定	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>(株)村田製作所「STEAM教育を通じて次世代を育成するパートナー」【2023年度から10年間】</u> ⇒ 展示場や体験事業等の充実支援。毎年1千万円、合計1億円の寄付。 ・ <u>武田薬品工業(株)京都薬用植物園 「教育活動の推進」【2024年度から3年間】</u> ⇒ 屋外園整備や教員研修の充実支援。 ・ <u>京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館「きょうと☆いのちかがやく博物館」【2014年度～】</u> ⇒ 連携イベントの実施。
体験講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>未来のサイエンティスト養成事業「体験コース」における協力企業・団体【2024年度実績】</u> 大阪ガスネットワーク(株)、京都大学大学院医学研究科ゲノム医療学講座、京都大学iPS細胞研究所、(株)サイフューズ、テラスエナジー(株)、さすてな京都、(株)島津製作所、清水長金属工業(株)、ナカライトスク(株)、ニデック(株)、(株)村田製作所、京都市衛生環境研究所、京都市上下水道局
企業特別展	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>企業特別展における協力企業【2013～2024年度実績】</u> ニチコン(株)、京セラ(株)、オムロン(株)、ローム(株)、(株)堀場製作所、三洋化成工業(株)、タキイ種苗(株)、(株)SCREENホールディングス、(株)村田製作所
協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>京都市科学系博物館等連絡協議会【26団体が加盟】</u> ⇒ 青少年科学センターが事務局となり、毎年、サイエンスフェスティバル等を開催
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>標本研究における連携</u> 大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館

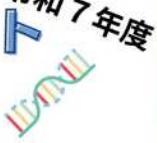
● 未来のサイエンティスト養成事業

※募集チラシの一部を抽出して掲載



未来のサイエンティスト 大募集!!

令和7年度



探究コース

定員10名程度

青少年科学センター所員や大学・企業等の専門家の助言を受けながら、自分の関心のあるテーマを研究し、2月に開催する発表会で他の会員や保護者の前で研究成果を発表します。

さらに、8月に募集の「京都サイエンスコンテスト」に研究を出展し、日本学生科学賞や全国児童才能開発コンテストなどの全国のコンテストの入賞を目指すなど、研究を深めましょう。

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学5年生～中学3年生**の児童・生徒

選考：申込内容をもとに選考します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて御連絡します。発送は6月下旬予定。
(事業説明会を7月6日(日)に予定していますので会員になられた方は御参加ください。)

応募期限：令和7年6月12日(木)まで

その他：応募方法は裏面を御確認ください。

体験コース

定員200名程度

企業等による独自の技術を活かした実験教室に参加し、学校では体験できない科学の不思議さや面白さを実感して自分の研究テーマを探しましょう。

対象：京都市内在住又は市内の学校に通学する**小学4年生～中学3年生**の児童・生徒

抽選：申し込みがそれぞれの講座の定員を超える場合は、抽選にて参加者を決定します。

結果通知：結果通知は応募者全員に書面にて御連絡します(7月上旬予定)。

応募期限：令和7年6月22日(日)まで

その他：実施内容や応募方法は裏面を御確認ください。

※ 11月以降に秋冬講座を実施予定です。
秋冬講座の詳細が決定次第、体験コースにお申込みいただきました方に御案内します。

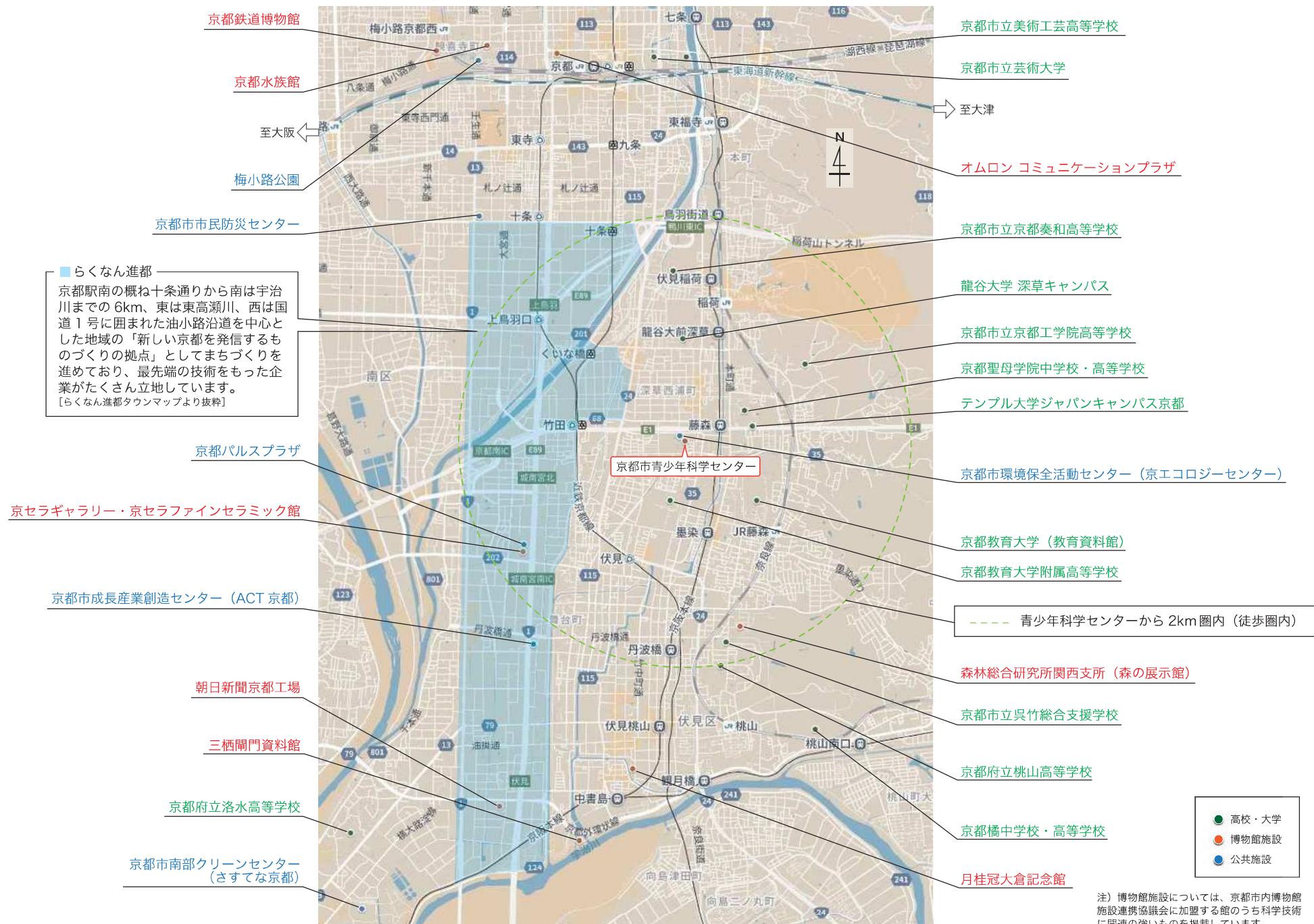


体験コース 夏期講座



実施日	テーマ (実施者)	時間	対象	実施場所	定員
7月22日 (火)	研究者ってどんなことをしているの? ～実験スタンプラリーに挑戦～ (ナカラライスク校)	10:00～12:00	小学生	科学センター	16名
		14:00～16:00			16名
	モーターと地球環境～わたしたちができること～ (ニップク館)	13:30～15:30	小学生	科学センター	40名
7月23日 (水)	自分で作る蚊取り線香を作ろう～蚊の不思議に迫る～ (京都市衛生環境研究所)	13:30～16:30	小学生	京都市衛生環境研究所	25名
	螢のふしぎ (大飯ガスネットワーク館)	10:00～11:15	小学生	科学センター	20名
		13:30～14:45			20名
7月24日 (木)	環境科学教室～私たちの生活を科学の目で見直そう！～ (京都市衛生環境研究所)	13:30～15:00	中学生	京都市衛生環境研究所	20名
	私たちと自然をつなぐ物質のめぐらを学ぶ (総合地球環境学研究所)	10:00～12:30	小・中学生	総合地球環境学研究所	20名
	下水処理の仕組みを学ぼう (京都市上下水道局 水質管理センター 水質第2課)	10:30～11:30	小学生	科学センター	15名
7月25日 (金)	電気エネルギーを考えよう (桃村田製作所)	10:30～12:00	小学生	科学センター	40名
		14:00～15:30			40名
	水道水ができるまでのしくみ (京都市上下水道局 水質管理センター 水質第1課)	14:00～15:30	小学生	科学センター	15名
7月26日 (土)	どきどきめっき体験 (清水長生園工業)	10:00～12:00	小学生	科学センター	20名
	島津ふんせき体験スクール(分光コース) (島津製作所)	9:30～12:00	小学生	島津製作所	10名
		13:30～16:00	中学生	島津製作所	10名
	「発酵」でつながる「生きものサイクル」 ～自然のチカラとヒトの技術～ (武田楽器工業京都楽器植物園・ささてな京都)	10:30～12:00	小学生	ささてな京都	36名
		13:30～15:00			36名
	「未来×エネルギー発明家体験」 ささてな京都で未来のエネルギーを探そう！ (㈱ヨーラスエナジーホールディングス・ささてな京都)	9:30～12:30	小学生	ささてな京都	24名

● 京都市青少年科学センター付近の施設情報（主な高校・大学／公共施設／博物館施設）



【重点的な取り組み】

参加・活動型



【主なテーマ】

原理原則
自然科学

最新技術



展示・学習型

※本検討会議事務局の見解・解釈に基づいています。